

成績

- 日本の金メダル獲得数、全体的な成績は前回大会と比べ向上。
2019年（金2/銀3/銅6）→ 2024年（金5/銀5/銅4）
※新型コロナの影響により、分散開催された2022年大会を除く
- 日本の一部金メダル有望職種においては苦戦
→中国は59職種参加の内、36職種で金メダル獲得
（2026年自国開催を見据えた選手強化）

その他

- 大会時の総会で2028年国際大会の日本・愛知招致が実現
（日本での開催は2007年静岡大会以来21年ぶり）
- リヨン大会の日本の選手派遣職種は59職種中47職種。
12職種で未派遣。

主な意見

- 分科会を中心に関係者で強化を図る現行の枠組みは効果的。また、海外での訓練の経験は重要な機会。
- 2028年大会の自国開催を控える中、競技力の強化を図るべきではないか。特に中国が対策の強化を図る中、我が国においても、金メダルの獲得を目指せる職種を中心に、対策のさらなる強化を図るべきではないか。
国内大会の国際大会への競技課題などの整合化、選手選抜方法の見直しも必要ではないか。
- 選手の強化訓練への負担が大きい。
中小企業や学校関係者が代表の職種、職種の特性も考慮し、強化訓練への支援を強化すべきではないか。
- 国内で技能の重要性を訴える一層の取り組みが重要。自国開催を見据え、広報の一層の強化を図るべきでないか。

2028年自国開催を見据え、特に下記の取り組みを強化。

- 1 メダル獲得を期待できる職種を中心に更なる競技力強化を図ること。さらに国内大会の国際大会への競技課題の整合化、選抜方法の適正化の一層の推進を図ること。
- 2 より多くの職種で選手を派遣し、未派遣職種の解消を図るための取り組みを推進すること。
- 3 関係者の協力を得て、国内で技能の重要性を訴える取り組みを強化するとともに、技能五輪の広報の一層の強化を図ること。